

## 【コロナ禍における活動のお悩み等】

### ●リアル(対面)開催について

- ・ こども食堂を主催していますが活動場所の利用制限で再開できないこと。
- ・ 居場所（イベント・食堂・カフェ）の再開のタイミングや条件。
- ・ 色々な人に参加して欲しいと思いつつも、リアル会場開催のイベント（こども食堂）だと、密を避けるため、宣伝を控えるなど、広報に悩むところが多いです。
- ・ イベントや講座を開催したいと思っても、「密になる」、「クラスターが起きたら困る」などと言われ、開催できなくなることがある。
- ・ 在宅でのテレワークが主体となり、これまでの区民協働活動が休止中になっている。
- ・ 人とリアルに会えなくなった。
- ・ 地域向けの活動をしたいと思っているが、コロナ禍のため、参加希望者が集まりにくい。もしかクラスターが起きてしまったら…という不安もある。
- ・ ①参加者 100 人を超えるイベントの開催方法、②防災避難所の運営方法。
- ・ ①皆が集まって活動出来ない、②会場、レストラン等の人数制限または閉鎖で活動できない、③3密防止対策で練習に制限。
- ・ ①リアルイベントが開催できない、②感染対策に手間とコストがかかる。
- ・ (ショッピングセンター勤務の方からのご意見)  
館内スタッフおよびお客さまとのコミュニケーションに悩んでおり、また、イベント等がコロナ前と同様にできず、地域貢献の方法を模索しています。
- ・ (子育てサークル運営の方からのご意見)  
with コロナの状況下で、改めて人との繋がり大切さを感じており、コミュニティ活動をされている方々や、地域の方々と繋がりを持つことで、活動の幅を広げていきたいと考えております。  
具体的な活動の悩みとしては、例年通りの計画では進まないことも多く、企画案、場所案等を探しながらの活動となっている点です。
- ・ (※携帯やパソコンをお持ちでない方からのご意見)  
川崎市と神奈川県地球温暖化防止推進委員をさせてもらっております(環境リーダー)。コロナ前は、特にSDGsに関するチラシを配布したり、出前講座をしておりました。しかし、コロナでホームステイになり、県からも活動自粛の通知があつて、今までのような活動ができなくなっております。知っている方へは電話や家の前にちらし箱を置いて、持って行ってもらうようにしておりますが、これでは難しいです。これからどのようにしていくか、考え中です。
- ・ 「スマホカフェ」を月一回開催していたが、小さい机で対面の会話のため2月から開催を取りやめています。参加する方たちとは、カフェ開催場所に来てもらえないため、今までのつながりが消えてしまった。今後は、LINE や Zoom でスマホ相談ができる様な対策などを考えていかないといけないが、スマホ操作を把握(カメラで写す)し教える方法がまだ浮かばない。

- ・人と接するコミュニティ活動が町会内でできない。コロナ禍でのコミュニティ活動をうまくやっていくにはどうしたらいいかの悩み
- ・町会活動を 20 年以上推進してきました。このコロナ禍でほとんどの活動が休止や停滞する中、今後の地域コミュニティ・人々のつながり、川崎市のコミュニティ施策について学びたいと思い、ぜひ参加したいと存じます。

⇒リアルな場をつくる上では、信頼感・安心感のある場づくりが求められます。それに向けては、感染対策（換気、消毒液の設置、マスク着用、検温の実施、フェイス・マウスシールドの活用、パーティションの設置、事前予約制の導入、1 回の人数を絞って複数回の実施、会場定員の半数以下での実施、参加者同士のディスタンスの確保、感染が発覚した時に連絡できるようにするための参加者名簿の作成…等）を徹底することが重要です。

また、リアル開催が必須でなければ、リアルとオンラインをいつでも併用できる環境を整え、最新の感染状況を把握しながら、コロナ禍が縮小してきたらリアル開催、拡大してきたらオンライン開催といったような運用はいかがでしょうか。

### ●リアル志向とオンライン志向の温度差について

- ・オンライン志向の人とリアル・オフライン志向の人の意識分断。
- ・みんながオンラインでの活動に慣れてきて、効率的でやり易くなった。

⇒まずは、それぞれの考えを認め合う「寛容」と「包摂」を前提とし、オンラインが初めて及び苦手な方には、懇切丁寧にオンライン化の支援・IT ツールの手ほどきが必要です。

環境が整いましたら、慣れるために数をこなしてください。始めは失敗してもいいように、オンライン飲み会のような緩い企画から始めてもいいと思います。操作に慣れてきた頃には、温度差もかなり埋まっているのではないのでしょうか。

また、オンライン環境は人によって様々です。例えば、PC を使う人、タブレット、スマホを使う人、高速データ通信ができる人とできない人、家の中や外が騒がしいなど、いろいろな環境の違いがあります。お互いの環境を知り、配慮・工夫をしながら進めていくことが大切です。

### ●人材について

- ・自分の活動しているエリア内において、地域活動人材の発掘に結びつかない。

⇒オンラインのメリットである「気軽な参加」という面を活かしてみたいはかがでしょうか。今回のまちのひろばフェスも 2020 年からオンラインによる参加を導入しましたが、初めて参加された方が一定数いて、大学生などの若年層の参加も見られました。会場に直接行かなくても気軽に参加できることが、新たな参加者の発掘につながったのではないかと思います。

中村さんのお話にもありましたが、まずは気軽にオンラインで緩くつながり、何度も説明会・勉強会を実施して、必要に応じて直接お会いするのはいかがでしょうか。また、初めは簡単な役回りからお願いし、相手の反応を見ながら徐々にコアメンバーに入ってもらえるのも一つの方法です。

また、SNS の活用も、人材発掘のきっかけになるとと思います。例えば、市民活動をされている方は FaceBook を活用しているケースが比較的多いので、同じテーマや地域の関心層がつながっていることがあります。SNS 上でつながりを広げていくことも有効な手段になるとと思います。

## ●その他

- ・自己の体調管理の徹底。

⇒人に伝染さないためにも、自己の体調管理の徹底は必須です。毎朝体温を測ったり、外出時にはマスクの着用、帰宅時にはうがい・手洗いの実施、また、少しでも体調がすぐれないようであれば、無理をせずに休養することも大事なことだと思います。

## 【会場からの質問等】

### ●Vege&Art Fes さんへ

- ・色々と積極的に取り組まれていて参考になりますが、リアルで人数を少なくすると、来たいという人を制限することになってしまいますが、その方たちへのフォローはありますか。

⇒コロナ禍において、ソーシャルディスタンスを確保できる定員を超えるわけにはいかないので、会場外で対応したり、こまめに人数調整を行って対応しました。

### ●オーベルグランディオ川崎自治会さんへ

- ・自治会の加入率はどれくらいですか。入ってない方も参加できるリアルな活動・リモートの活動はどのようなのでしょうか。どのようにしてその方たちを取り込まれていますか。

⇒全戸加入のため、加入率は 100%。情報共有には、マンション内の掲示板を活用し、コロナ禍においては今まで以上に情報発信を行っています。

### ●川崎市職員 PJ チームさんへ

- ・チームを作って色々試みていられ、これから先へ希望が持てると思えました。トイレのこともですが、今後、屋根のある場づくりも考えていかれるのでしょうか。

⇒コロナ禍においては、屋外のまちのひろばの方が適していると考えますが、今後、屋

根のある場づくりも検討していきたいと思います。

## ●その他

- ・オンラインを全くしないのですが、これから必要なものを揃えるのに、どれくらいのコストがかかるのでしょうか。最低必要なものとは。

⇒今回オンライン参加で使用した Zoom であれば、参加するだけの利用や、3 名以上で打合せ等を実施する場合、40 分以内の利用であれば無料で利用することも可能ですが、Zoom 会議を主催する必要がある場合は機能が充実した有料会員になる必要があり、約 2~3,000 円/月かかります。

また、その前提として、使用する機器（パソコン、スマホ、タブレットなど）やネット環境（光回線、モバイル Wi-Fi など）は、機能等により金額は様々ですので、ご自身の利用プランに合ったものをご購入、ご契約ください。

- ・対人だと雰囲気を感じて進行の調整が取れますが、リモートの中だとそういうことを感じるの難しいと思われます。どのように把握していけばいいのでしょうか。

⇒簡単ではありませんが、事前に短い時間でもこまめにコミュニケーションを取りつつ、会議等はトライアンドエラーで回数をこなし、慣れることが一番の近道だと思います。実際に会議等を行う際は、分かりやすくアクションし、リアクションも大げさにしてもらいよう呼び掛けてはいかがでしょうか。

Zoom の場合、ブレイクアウトルーム という小部屋に分かれて少人数で議論することができるので、少人数でできるだけ全員が気軽に発言しやすい状況をつくっていくことも大切です。

また、本題に入る前に、自己紹介や本日の気分などを参加者に発言してもらいようにすると、会議を進行する時に参加者の状況がわかるとともに、参加者も発言しやすくなります。

## 【チャットからの質問等】

- ・「0~100 歳のための見守り支援ネットワークを創る会」  
認知症ケアカフェ等の会場でもある「ココデカフェ」（溝の口駅近く）で発足。  
日時：毎月第 2 水曜日 13 時半~15 時半  
内容：見守り支援ネットワークづくりに興味関心のある高津区民等が集い、情報共有や可能な範囲でのイベント開催方法：感染症対策をした会場への集合+ZOOM 参加も可  
(70 歳の方にも ZOOM の使い方を説明させて頂き、高齢者も参加しています！)

<http://www.cafe-cocode.com/>

⇒情報提供、ありがとうございます。ご興味があれば、まずは上記 URL でご確認ください。

- ・具体的なお話が、様々な方がそれぞれの実践からお話いただけ、大変に参考になりました。また元気もたくさんいただきました。それぞれの活動団体にお聞きしたいのですが、コロナ禍で新たなメンバーを増やせていますか。もともとのコアメンバーでの、意志確認などもコロナ状況での温度差もあり難しい現状もある中で、みなさんはどうでしょうか。

⇒コロナ禍を考慮し、オンライン化したことで、海外からの参加というオンラインならではの出会いというものもありました。コアメンバーの意思確認には、ミーティング等を頻繁に実施することが大切だと思います。

- ・ヒントになるお話ありがとうございます。リアル、オンライン、ハイブリッドで行う場合、同時中継で行うのか別々に行ったほうが良いのか、いかがでしょうか。

⇒今回はセミナーに近い形で開催しましたが、アンケートでも、「今回のような開催であれば、同時開催も気にならない」という方が 90%でした。また、YouTube で参加していた方に感想を聞いたところ、「ライブ配信だとリアルに参加している感があった」というご意見をいただきました。ただ、ワークショップや合意形成といった内容だと、やり方や参加人数など、工夫が必要になりますので、まずは目的をはっきりさせて、事前に共有することが参加者の満足度につながると思います。

なお、YouTube の生配信をする場合は、配信の機材や環境などを整える必要があり、運用も専門性が必要になります。

Zoom 参加とリアル参加を同時に実施する場合は、Zoom の音を会場参加者に聞かせることと、会場の音を Zoom 参加者に聞こえるように拾うことが必要になり、音響面の知識や機材が必要になります。

このように、ハイブリット開催の場合は、メリットもありますが、ハードルが高くなる面もあることを鑑みて、計画されるのが良いと思います。

- ・大変参考になりました。長期戦、納得。

⇒大変参考になって良かったです。イベントの最後にご紹介させていただきましたが、『コロナに負けるな！「まちのひろば」の取組募集！』を行い、市ホームページに掲載していきますので、ぜひチェックしてください。